

日刊 十月廿七日

常磐每日新聞

東京 丸の内區 常磐橋 常磐橋 常磐橋
 電話 三六三〇 電報 常新日新 印刷 常磐橋印刷株式會社

廣告料 每行 21 字 5 日 1 元 1 月 5 元 3 月 12 元 半年 22 元 1 年 40 元
 零售 每份 10 錢 郵費 在內 外埠 另加 郵費

貧乏の叫び

吉岡大藏

貧乏は恥しいものだと言ふ人間が居る。それは誰だお前も男だらう。恥しいと言つて尻込みをしてゐてどうする。お前には華やかな前途がある筈だ。もう一步超越せよ。虚榮の夢を捨てよ。然らば汝は其處に何物にも優れた貧乏の價値を人間の上に——否自己の上に見出すだらう。一杯の汗、一碗の麥飯に獻げる感謝の祈りに人間が到達するを得たならば其處には貧乏は寧ろ誇るべきである。

貧乏の前途の如何に華やかなる事よ。そこには征服せらるべき幾多の塔が聳えてゐる。その塔からふり返る者の瞳の何と空虚なる事よ。希望もなければ樂みもない。人生の悲哀に觸れた瞳だ。底知れぬ人生に、無經驗の爲の不安を感じた瞳の色、半ば人生をあきらめかゝつた絶望の瞳、彼等は後より來る者の希望に満ちた歡喜を羨んでゐる。その力に驚いてゐる。貧乏に鍛へ上た凛々しい男の肉體に

見惚れてゐる。彼等は始めて貧乏の力を知つた。そして裕福な家庭に生れたのを悔んでゐる。「若し貧乏に生れさせて来てゐたらなあ」と歎く。あゝ貧乏なる生活の何と力強さよ。前途を洋々たる海原にたとへて、何と血潮の騒ぐ事よ。胸を一杯にはりあげて絶叫したい。何かの衝動に驅られて微笑む。強敵來らば來れ。もとより望む所。いやしくも人間と生れた以上、かく充實した生活を營むのが、眞に男子の本懐ではあるまいか。

私は此處に於て、あらゆる方面に貧乏を讚美し謳歌する。私は常に我が同胞をして悉くびん乏を體驗せしめたいと思つてゐる。古來偉人、英傑にして、世界を風靡さす如き大言論をなしたものは、必ずや過去の體驗——彼等は多くびん乏な境遇に生れ合せたよりも得たるびん乏の叫びである。

重ねて言ふ。諸君よ。びん乏は體驗して置くべきである。殊に現今の如き實力主義の世の中にあつては何よりも實地の體驗が有力

なる味方である。眞の人物を造りあげんとするには、びん乏を以て最適とせよ。

玉磨かざれば光なし。社會を知る爲には必ずやドン底社會を標準とせねばならぬ。ドン底社會を知る爲には自らびん乏の體驗がなくてはならぬ。びん乏の體驗なき人は、共に社會を語るに足らざる人である。

私の理想は、びん乏を就職上の資格として取扱ひたいといふ考へである。びん乏の體驗者は寸分の隙がない。確固たる意志がある。強健なる身體がある。確かに他の者より秀れた何かをびん乏によつて獲得してゐる。私は未だ此の點を當局者が餘り注目しないのを残念に思ふ。併し、今にきつと、肩書よりも有力者の紹介状よりも、びん乏といふ何物よりもの特典が來る時代を信じてゐる

綴り方

僕と弟のけんくわ
 平第一校第五
 松本 博

「此の頃の兄ちゃんばか

「だな——」
 「なせだ」
 「此の頃勉強をしないからさ」
 「へんだ自分が勉強しないくせに」
 「どつちがだ」
 「なまいき言ふな」
 「生で生きてゐるから言ふんだ」
 「言はなくともすむんでないか」
 「言つたつてすむんでないか」
 「ばかやうらう」
 「なまいき言ふとばかんと行くぞ」
 「それは、おれの言ふ言葉だ」
 「一んだから先に言葉をもらつたんでねか」
 「何だこのしらくも頭」
 「なんだおれがしろいかべか」
 「いてつひねつたなばかんと行くぞ」

「母ちゃん、みな——」
 「くたから」
 母「しろちゃんはお使に行つて來な」
 「いやはや」
 「どんなもんだい」
 母「公平は君子をもちだよ」
 「やつて——だ」
 「やあいだ」(お使より歸つて來る)

「公平のおんてこはどこへ行つたんだ」(かくれてゐた弟)

「東京へ行つたんだよ」
 「ばかだな公平は」
 「うろやかば」
 「支那言葉か、それとも公平言葉とも言ふのか」
 「後からかんがへろい」
 「けつから出るのはくそぢみだ」
 「後からよんで見ろ」
 「ちく生やつたな」
 「どんなもんだい」
 「くそやうらう」(父のよぶこえ)

冬服 衞植

紺色柄物……三ッ揃……拾、貳圓
 最新柄……三ッ揃……拾三圓五十錢
 スコッチ……三ッ揃……拾六圓五十錢
 最上紺黒……三ッ揃……拾九圓
 高級品……三ッ揃……拾九圓
 ウィンステット

平町正札堂洋服店 電四三六

冬も暖かく

- 裏毛メリヤス 三五錢
- 毛メリヤス 一二〇錢
- 婦人みやこ 六八錢
- 婦人毛シャツ 九五錢

モリタヤ洋品店
 買ひ良き店 5丁目電353

三十日より堂々公開

東西兩洋の名映畫を配した
 豪華夢幻の陶酔境へ
 來れ吾が友我等の有聲座へ

新興帝キネが自慢で放つ巨家映畫
 映畫界問題の風雲兒
 原作大佛次郎 少年俱樂部連載
 嵐寛壽郎 大奮闘 大熱演

鞍・馬・天・狗 完結篇
 愈々御期待裡に堂々封切り公開
 米國大バラマウント社特別提供
 ニデイ・カンター氏主演
 ビリ・ポウ嬢 大助演

猿飛びカンター



笑へと冒険の大洪水最新版輸入封切
 東亞キネマ特作時代劇 原作本田美禪
 嵐寛壽郎 原駒子 岡田静江

都一番風流男

有名畫 殿堂 有聲座 電四四六

米價上向を見越して

おびたしい在米高

平町役場の調査額

穀物検査平支所では目下管内の在米高を調査中であるが平町役場で調査した平町の

在米高 は左の如くである

- △地主持米 一六〇俵
 - △自作農持米 七〇俵
 - △商人持米 三九〇俵
 - △合計 六二〇俵
- で昨年同期の平町在米高は
△地主持米 三〇俵
△自作農持米 五〇俵
△小作人持米 四〇俵
△商人持米 一七五俵
△合計 二九五俵

求人の開拓余地は

悲觀に及ばず

昨日三十一件の申込み 寧ろ好成績と識者語る

職業紹介法發布十周年記念求人開拓デーは昨廿六日平町長橋方面から開始廿七日は警察署前通りから鎌田町へかけて施行

明廿八日は大工町踏切から仲間町、北目、古鍛冶通りへかけて行ふ筈であるが非常な値安である爲め新

職業	人数	性別
土木	4	男
建築	4	男
農林	1	男
水産	1	男
戸内	3	女
雑役	2	女
工業	2	男
商業	8	男
運輸	2	女
その他	2	女
合計	28	

消防慶弔法

新たに制定

目下起草中

現在四千餘名の消防組員を有する平署管内の消防組には組員の慶弔法の規定がない爲め統制上頗る不便の点

あるので目下平署では来る秋期消防検閲迄に慶弔法を制定すべく起草中であるが右規定は消防組員の傷庚死去等の場合に適用するのである

産婆試験

合格者

平署管内の分

本年度第二回産婆試験の學課試験は過般福島市公會堂に施行され右學課試験は昨廿六日発表されたが實地試験は卅一日同公會堂にて行はれるが平署管内に於ける産婆學課試験の合格者は次の如くである

- △齊藤カツヨ △高橋トミ
- △味岡妙 △芳賀スミ △菅野菊枝 △高橋キヨ

澁川堤防へ

縣補助申請

出水のため災害を蒙つた植田町大字佐糠地内澁川の堤防復舊工事は同町會はよつて追加豫算として復舊することに議決したが工費は八千二百八圓でその内五千四百七十七圓を縣費補その他二千七百三十一圓は地元寄附にすることになり昨廿六日縣補助申請をなした

橋本木名瀬兩氏

米査定會に出席

來月十五、六の兩日福島穀物検査所に於いて開かれる昭和六年度標準米の査定會へ石城郡農會からは橋本技手、平穀物検査支所からは木名瀬所長が出席する筈

來月十日から

健康週間デー

宣傳ビラやポスターで

十六日には講習會

來る十一月十日より十六日まで縣下一齊に行はれる健康週間デーに際し本縣警察部では縣民の衛生思想普及向上を目標として實施計劃中であつたがこの旨を體して福島食肉協會及牛乳協會平支部役員は昨二十六日平署會議室に參集協議を行つた結果

一、十日より十五日までは宣傳ビラ、ポスター等を配布宣傳すること

河川改修の即

時斷行を陳情

石城郡玉川村を貫通する藤原矢田の兩河川は年々水害を受けることが夥し

之が浚渫改修の即時斷行に關し今廿六日駒木根同村長より川崎知事宛陳情書を提出した

平町人事

回出生

△櫻町三二 生田目末之助氏四男採
△一丁目九 當時石城郡内郷村大字
宮字宮澤小野金太郎氏長女ハルヨ

新趣に輝き

實價を誇る

各種

運動服

具裝

大廉賣

大運動具店

平・田町 電七七番

御用命は印刷物の總代理
常磐日報印刷株式會社
電話三六〇番

十月

鹿は啼きつゝ

赤井嶽の紅葉に

晩秋の山の靜寂

荒立つた後にくる澄んだ心持、それが秋の心だ(瓊音) 視覚に感ずるの日光、

月光、雲、草花、匂ひでは木の花、觸覺の秋の風、聽覺の虫の聲—ものみな秋の持つ本來の感じ、街の人々はコバルトの空の下に、

只、秋の清澄さを知る 一山に 繞石
ひびく木魚や 秋ゆふべ
だが、關井嶽に遊んで も、この木魚の音は仲々に びびかない、カーン、カーン

關井嶽の秋に遊ぶ 去りゆく者多くしく来る者なき晩秋の村は、靜かな日を繰り返して老ひてゆく、
大家の名文を真似れば「朝夕に寺の鐘が無限の情を含んで鳴りひびく、下界には涙がある、然、一度山を仰

山には菊が盛りである、鹿もかい／＼と啼きつゝ遊ぶ、小熊が愛らしい眼で我々にじやれつゝいてくる、そして我々は全山紅葉の中にたゞひとりつゝまれてゐる氣がする、聖なるもの「山」への憧れは、街の人々を朗らかにする、秋の外出の愉しさから一日の生活のうらみを感じ

早くも歳末への悩みに

沈滞せる平地方の経済界

中小農商業者の金融切迫

米價見直す迄に持米皆無

吹きまくる財界不況のあらに巻き込まれて平地方の経済界は全く青息吐息の状態であるが殊に金融方面は甚だしく有力な地元銀行を失つてゐる關係上資金の融通は非常に困難で一般農家や中小工業業者はひたすら高利を拂つて高利貸等の手から融通を受けてどうにか急場を凌いでゐるが米價は不作の上に安く政府米買上發表で幾分値上りを示したものの、小作人階級では

兒童畫展

いよゝ明日

盛會豫想さる

既報平町地方最初の試みで

井上組頭祝賀會

檢閲豫習終了後

明廿八日平館に

今秋舉行される平署管内の消防檢閲の日定は未だ決定しないが平消防組では明二十八日午前八時組員全部松ヶ岡參集し檢閲豫習を行ふが終つて同十一時から平館に集合し今回安達内相より授與された井上組頭の消防功績章祝賀會を開く筈である

親子二名

餓死に瀕す

役場へ救助願

茨城縣東茨城郡飯富村字飯富一八生飢賣業大木勘次郎（三）は十數年前妻ミヨと出稼の爲各地を流浪中ミヨは

居たが一週間程前から全身に腫物様な病氣に冒され商賣も出来ず宿代は勿論親子兩名餓死せん許りなので本日町役場へ救助方を願出た

麻雀試合

ピンホール

對湯本温泉

平町田町ピンホール俱樂部對湯本町温泉クラブの麻雀試合は來月十五日午後六時からピンホール俱樂部で開催試合は一包法で會費五十錢希望者は當日まで申込まれたいと

勿來の土藏破り

會津にて捕はる

去る五月中石城郡勿來町小野忠大方土藏を破り衣類其他數件を窃取した犯人に就いて其筋では捜索中の處去る廿四日南會津郡江川村地内を徘徊中の男を逮捕取調べた結果右は宮城縣生れ前科五犯船山勇（）で前記犯行を自白した

榮冠をめぐりて

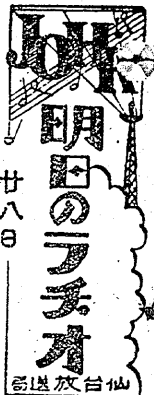
篠原 鈴木組(中) 神宮へ

最初の對手は高輪中學

本縣代表明朝出發

青年日本の若人が明朗な美と力との交響樂にスポーツマニアの血を躍らせる第六回明治神宮體育大會はいよゝけふ廿七日總裁秩父宮殿下の臺臨を仰ぎ奉り午前

十時から開會式が舉行された青春の誇りと望みをこゝに明治大帝の御聖徳を偲び奉りて全國三萬の若人はあつまる、この晴れの大會へ本



明日のラジオ

今夜も明日も北西の風晴れたり曇つたり時には驟雨の氣味

今晚の部

後六、〇〇 管絃樂とトランペット獨奏「序曲」コフデリアボロ「東京ラヂオオーケストラ」ニコライマルチエフ 指揮奥山貞吉

二部

後七、五〇 政治家の夕「趣味を語る」岡田忠彦他四名
後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

前九、一〇 料理献立「巻キヤベジ」
前一〇、三〇 家庭講座

青年代表

三君出發

廿九日夜行

縣下十萬青年の代表たる榮譽を擔つて神宮體育大會に石城郡から出場する選手草

娘へ送つた金が

宙にぶら下がり

可哀想にも歸國出來ず 母親から調査願ひ

石城郡神谷村字向鎌田留松妻山田マツ（五）は一週間程前神奈川縣平塚町關東紡績工場に女工をしてゐる同女長女キヨ（九）が最近脚氣に罹り歸國すべく旅費二十圓の送金方を云つてきたので苦しい中から右金圓を取捕へ送金した處昨廿六日着の返信にてキヨは受取つてゐない事が判り本日平人事相談所へ出頭その間會社側でまだ渡さないのかキヨが使ひこんでゐるのか調べて貰ひたいと願出た

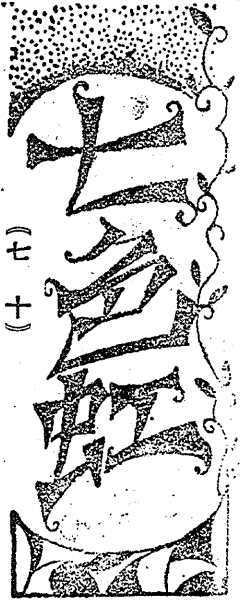
市原醫院

平町田町 電話一四四番

草野氏慰勞會

今回の縣議選に僅か六十二票の差で惜敗した民政派候補赤井村草野三郎氏の慰勞會は今廿七日午後一時から四倉町柏屋旅館で開催、同氏の地盤たる四倉町外十一ヶ村の有志數百名參會願る盛會を極めた

小説



【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

櫻散る夜 (14)

自分の弱さを現実に経験させられた彼は、聲をあげて泣き出した。やうに情けない心持になりながらまだ反抗の精力に曳摺られて、う呪ひつづけた。併しそれも東の間打たれたり蹴られたり髪を掻きむしられたり耳を引張られたりした部分があつた。と痛み出して來ると、そのことよりも今の惨めな運命に陥つてゐる自分の体がどうなるかといふことを心配せずにはゐられなかつた。

眉間を傷つけられたのかふと氣がつくと鬢の毛を傳はつて額にたら〜と滴るのは鮮血のやうだ。
『罰だ、父さんや妹の罰だ道樂の罰だ、いや、あの歌治の罰だ、ウーム苦しい』
何處でか良心のさゝやきが聞える、眼をつぶつてじつと考へると、自分を睨みつける父の怖い顔や、夢はしげに視詰める妹の顔や、霧のやうにぼんやりとそこに浮んで來た、はつと目を開くと灯のない真闇な室の天井に小氣味よげにせゝら笑ひをする歌治や、繼母の郁子などの幻影が朦朧と現はれて來る、烈しい鼻奮

かちとなつた首を僅かに寝臺の上に立てた、見ると直傍に例の女神……いや今は悪魔のやうなヨフラマと自分を虜にした鬼のやうなバセルとが立双んでゐた、彼は今のやうな眼を輝かしながら黙つて二人を睨みあげた。
『ちよいと、御覽よ、この醜態ッたらないぢやありませんか、ほんとに愛想がつきつちまうわね、オホ、ヨフラマが佛語でこういふとバセルはズボンのポケットに手をさし込んだま

をした後だけに心臓はいつまでも異常な鼓動をくりかへしてゐる。
『あ、息な氣持だ、明日までこんなだつたら俺はもう發狂するか悶死をする、ど、どうなるんだ、一体』
思はず大きなうめき聲を



あげた時に廊下先きに足音がした、續いて扉がノック開いた、誰やら入つて來た様子だ。
彼は喘む息を呑んだ、途端にスキッチをひねつたのであらう、ぱつと天井の燈がついた、眩しく射られた眼を瞬きさせた彼は、ぐつ

ないわよ、こいつは私見掛つちやつたの、すつかり欺されてゐたのよお客にするのも身分ある紳士と思へばこそ、勘定を踏倒した上に私の大事な物まで泥棒して逃げるやうな、そんな太い悪黨とも知らず一晩でも体をまかしたかと思ふと、口惜しくつて堪らないわ、どうしてやつたら腹が癒えるだらうね、ほんとに』
ヨフラマは足踏しつづきい〜した聲で罵り立てた『泥棒した、何をいふのかこらッ、き、きさまの物をいつ俺が盗つた』
源之助は餘りのとにわく〜と身ふるひして叫んだと、ヨフラマはずいとい足進ませて釣上げた眼尻に源之助をきつと睨めつけた。

大きな体に波打たせて『ウフ、どうだ、小僧もう一度試合をしようか、試合をする勇氣があるか、きさまに……どうだ』
と憎々しげに嘲弄した。
『有るもんですか、破裂弾のやうな貴郎の拳に今度なぐられたら、か有りやし

難波醫院
平町新川町
【釜屋新宅向】
電話五〇二番

毛糸と編物用具
全部新色三二一
入荷致しました
相變らず御用命の程……

靈効散
胃腸病薬の王座を占むる純漢法薬
松前公御典醫之秘法 家録登

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に読める
川崎巡文庫
電六三〇番

縣教育會石城部會
圖書科講習會
十月廿八日(水) 同廿九日(木) 貳日間
午後九時より午後三時まで
會場 平第二尋常高等小學校
講師 文部省囑託 石野隆氏
會費 不要

阿康藥舖
靈効散
地方代理店

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
大和田醫院
平南町(電話一七〇番)

展覽會陳列目錄
一、現代大衆作品
野尻湖
子供
南イタリーの風景
残雪夕照
下落合風景
菖蒲
七面鳥
薔薇
讀書
人形の首
日本一の大鳥居
庭
静物
其他——三十点
二、世界十三ヶ國代表兒童畫
三、全國優秀兒童畫
二〇〇点
二〇〇点

梅毒 淋病
皮膚病 婦人病
腸胃病 腸病
院醫科 腸病
七〇一話電
村松 町南平